

平成 27 年度 第 3 回善通寺市まち・ひと・しごと創生推進会議 会議録	
日 時	平成 27 年 10 月 28 日（水曜日）10 時 00 分～11 時 30 分
会 場	善通寺市役所 3 階大会議室
出 席 者	速水委員、村上委員、柴川委員、中川委員、津島委員、井上委員、山内委員、高口委員、山田委員、齊藤委員、秋山委員（欠席：香川委員、菅委員）
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度 第 3 回善通寺市まち・ひと・しごと創生推進会議 次第 ・資料 1 善通寺市人口ビジョン（案） ・資料 2 善通寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案） ・意見提案（「創生推進会議資料」）
会 議 の 概 要	<p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶 <速水会長及び総務部長より挨拶></p> <p>3 議 事 <事務局による議事についての説明></p> <p>(1) 善通寺市人口ビジョン（案）について</p> <p>(2) 善通寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について</p> <p><事務局による資料の説明></p> <p>(事務局) 今まで総合戦略の名称を「善通寺市総合戦略」と仮称していた。「総合戦略」だけの場合、その戦略が本来意図している人口減少対策の総合的な指針である「しごと」と「ひと」の好循環、それを支える「まち」の活性化という目的が見えづらいということもあり、国の名称にならない「善通寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とした。</p> <p>(議長) 善通寺市人口ビジョン（案）及び善通寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について何かあるか。</p> <p>(委員) 人口増減に関連して、可能なら陸上自衛隊善通寺駐屯地の総数を知りたい。また、将来的にどの程度になるか。定期異動でどの程度の転出入があるのか。</p> <p>(委員) 善通寺駐屯地の人員の総数は 1,600～1,700 程度であるが、善通寺市民だけではなく、周辺自治体に居住する者がいることに留意する必要がある。毎年度 8 月と 3 月に定期異動があり、50～100 人程度が異動する。将来については未定のため、回答できない。</p> <p>(議長) 駐屯地の人員の何割程度が善通寺市民かはわかるか。</p>

	<p>(委員) 手元にデータがないので、回答できない。</p> <p>(委員) 総合戦略の 17 ページの指標の出生数について、平成 26 年の基準値が 296 人となっている。将来展望では 7%程度減少するというが、あくまで外部機関の予測である。それに基づいて 5 年後の目標値 250 人を設定していると考えられるが、これは妥当なのか。将来人口推計に対する努力目標なのか。</p> <p>(事務局) 数値目標の出生数については、将来展望で示した合計特殊出生率から算出している。国は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、2060 年に人口 1 億人を維持するという前提のもとに合計特殊出生率 2.07 を打ち出しており、国と同様に、香川県や県下の市町も 2.07 を目標に掲げている。この出生率を最終的な目標として掲げた上で、それに向けて総合戦略を推進していくことを前提に算出した出生数となっている。</p> <p>(委員) 5 年後の出生率を 2.07 とした場合の出生数の目標が 250 人ということで間違いないか。</p> <p>(事務局) 出生率 2.07 は最終的な数値であって、5 年後のものではない。また、出生に係る数値を目標とするに当たっては、非常にデリケートな部分があるが、国の最終目標に沿ったものを指針としている。</p> <p>(委員) 目標値は現実より少し高くするケースが多い。人口ビジョンの 5 ページのグラフを見ると、出生数はそれほど下がっていないように思われる。2005 年から 2012 年にかけてはむしろ増加している。このことから、出生数 250 人は目標値として適切なのか疑問がある。根拠はあるのか。</p> <p>(事務局) ここ 10 年に関しては、団塊ジュニア世代、第 2 次ベビーブーム世代が駆け込みで出産された人が多い。今後出生数は減少していくとみられ、その点を勘案した上で目標値を設定している。</p> <p>(委員) いわゆる出産適齢期の女性が少なくなっていくのもあるが、結婚年齢が上がっているので、今までより年齢の高い女性の出産が増える部分もある。出生数の目標は低くないか。</p> <p>(事務局) 人口ビジョンの 6 ページにあるように、出産可能とされる年齢層の女性の人口が右肩下がりで減少している。自然減と 15~49 歳女性人口の減少を勘案して推計した結果、250 人という数字になった。</p> <p>(委員) その点を考えると、2010 年以降の出生数はもっと減少していたはずと思われるがどうか。</p> <p>(事務局) この部分については、先ほど説明した団塊ジュニア世代、第 2 次ベビーブーム世代の駆け込み出産が影響していると考えられる。出生数の目標値は、目標となる出生率、推計される女性の人口から算</p>
--	--

	<p>出した値であり、この数字を採用したいと考えているが、数値目標の指標を出生率でなく出生数としたことで、目標値が基準値を下回る値となっており、わかりにくい部分があることは事実であるので、総合戦略の本文では補足説明を追加することも検討する。</p> <p>(委員) 財政の裏付けが問題となる。国からの交付金を加えた事業資金は、市の当初予算と比べて、非常に微々たるものとなる。重点施策や優先順位を決め、それをきちんと検証した上で、達成したことはアピールして行ってほしい。</p> <p>(委員) 善通寺市の場合、農業振興が現実的な、実現可能な部分であるが、総合戦略 12 ページの農業振興の推進の目標値が低いように思う。また、農業産品の新規商品化について、現在ダイシモチ麦を PR し、それなりの効果を上げていると思われるが、これ以外に市で考えている農業産品があれば教えてほしい。</p> <p>(事務局) 具体的な商品化に関して、本年度から産業振興部ならびに営業課を立ち上げ、積極的に進めている。現段階で商品化には至っていないが、中讃地域の各種の特産品について、付加価値の高い健康食品としての商品化を念頭に健康成分に関する分析を行っているものもあります。</p> <p>(委員) 総合戦略 12 ページの目標値に関して、農業生産法人数が 6 法人増加と設定しているのにもかかわらず、認定農業者数が 1 人、新規就農者数が 2 人の増加と少ない数字なのはなぜか。</p> <p>(事務局) 総合戦略に記載している目標値に関しては、本市の総合計画と整合をとった上で、今回推進する施策を総合戦略に盛り込んでいる。総合計画に記載したものと違う数字を出すことは難しい。この点は、農業振興の推進に関する目標値も同様である。</p> <p>(委員) 目標値の 6 法人増えるという目安の根拠は何かあるか。あくまで目標は目標であって、経過において見直すに当たってどうしていくのか、具体的な話ができれば教えてほしい。</p> <p>(事務局) 農業生産法人については、平成 21 年度の実績値が 8 法人であり、平成 32 年の目標を 20 法人としていた。この 5 年間で 8 法人から 14 法人に 6 法人増えており、順調に増えている。認定農業者数については、平成 21 年度の実績値が 42 人であり、最終的に平成 32 年の目標を 55 人としていたが、中間年の平成 26 年度までに概ね目標を達成しており、このような状況となった。</p> <p>(委員) 目標値を変えてもよいのではないか。</p> <p>(事務局) 現在、総合計画について、中間年度の見直しを図っており、その中で数値を見直す可能性もある。現状は今の数字をおき、総合計画の見直しに合わせて、次回以降に見直すとういうことでご理解いただきたい。</p>
--	--

	<p>(委員) 了解した。</p> <p>(議長) 委員の質問は目標値の適否に関するものに集中している。説明の中で一部は根拠が示されたが、多くはなぜその数値なのか不明である。委員としては、根拠を示してもらえれば、それについて議論もできる。</p> <p>(委員) 国の方針、数値の根拠を善通寺市がそのまま使うのが正しいのか考える必要がある。例えば、善通寺市の合計特殊出生率はなぜ他の市町よりも高いのか。善通寺市はどのような状況であり、国の方針と整合性があるのか分析していくべき。</p> <p>(事務局) 国の方針と整合性があるかの分析は行っているが、細かな分析結果や目標値の根拠については、平成 21 年からの経過も踏まえ、改めて説明させていただきたい。</p> <p>(委員) 農業生産法人がこの 5 年間で 6 法人増えている。どんなかたちで増えたのかはわかるか。</p> <p>(事務局) 農地法の改正等があり、法人に移行すれば優遇措置もある。補助等と後継者の問題もあり、市内 2 地区などで農業者に集まっただき、農協の主導のもと、何団体か組織化された。地域の農業者の状況を理解している農協にご尽力いただいている部分大きい。</p> <p>(委員) 個人の小規模農家が、独力での継続が困難なために廃業する一方で、規模拡大のために海外の労働者を雇って法人化する。そうすると、法人数が 6 増える一方、農業認定者数は 1 しか増えないということもあると考える。</p> <p>(事務局) 個人として増やすのではなく、法人にして増やし、農地の集積、農業の近代化を図っているということは十分考えられる。</p> <p>(委員) 総合戦略の 20 ページの基本目標 4「安心安全で暮らしやすいまちをつくる」において、指標が転出者数となっている。これは「暮らしにくいから転出者が多い」と認識しているということによいか。転出の理由は、必ずしもそういうものだけではないと考える。転出者の抑制について、「安心安全で暮らしやすいまちをつくる」ということだけが具体的な施策なのか、わかりにくいところがある。</p> <p>(事務局) 市民アンケート調査において、防犯、防災に関しては、住むときに重視する点等について高い数値を示していたにもかかわらず、満足度については低い数値となっており、これが転出の要因の 1 つになっているのではないかと考えた。そのため、転出者数と防犯等をリンクさせるかたちとなった。</p> <p>但し、委員ご指摘のとおり、基本目標 4 については、指標と具体的施策の関連性が弱いと思われるので、今一度検討したいと考えております。</p>
--	---

	<p>(委員) 住みやすさに関してだけが、転出していく要因なのか疑問がある。様々な要因の中で最大のものならば、このような施策だけでいいと思うが、転出者を指標におく以上は、転出の理由を把握する必要があり、「安心安全でくらしやすいまちをつくる」については、また違う指標がありうるのではないかと思う。</p> <p>(議長) 「なぜこの数値か」だけでなく、「なぜこの指標か」についても根拠を示しながら検討して欲しい。</p> <p>(委員) 前回の資料にあるが、丸亀市に対する転入数・転出数が突出していることには理由があるのか。また、「安心安全でくらしやすいまちをつくる」に防犯、災害、環境とあることと関連して、最近はイノシシの被害が出ていることから、災害、防犯だけでなく、自然、動物に関する施策を入れてもよいと考える。</p> <p>(事務局) 丸亀市への転出者が多い理由については、正確なところは不明である。その分析も加味し、今後の施策について考えていく。また、野生動物対策を盛り込むことについては、本市の施策等踏まえた上で今後検討していく。</p> <p>本市周辺の自治体の人口分析を調べたところ、坂出市をはじめとする他の市も丸亀市に対して転出が多くなっている。原因の一つとしては、丸亀市では、交通アクセスが良好な国道 11 号バイパスに面する土地が多く、民間事業者による宅地分譲が活発であることがあげられる。事実、本市においても、全市的には人口は減少傾向であるが、国道 11 号バイパスに近い竜川地区等では活発に住宅建設、団地造成等が行われている。丸亀市でも市内中心部の人口は減少しているが、国道 11 号バイパスに近い柞原町、三条町、郡家町あたりを中心に人口が増えている。</p> <p>バイパスに面している土地が多いという点において丸亀市に優位性があると考えられるが、善通寺市も善通寺インターチェンジを有しているという優位性がある。これまでの推進会議においてもその辺りをもっとアピールしていくべきだという話が出ている。丸亀市は住みやすいイメージが広く浸透しているが、善通寺市はその点で宣伝不足ということがあり、住みやすいイメージを持たれていない。交通の便がいいということで、働くのは市外でも住むのは善通寺市という部分も今後はもっとアピールしていこうと考えている。</p> <p>(議長) 他に何かあるか。</p> <p style="padding-left: 2em;"><特になし></p> <p>(議長) それでは、概ねこの案を成案とする。なお、今回の会議において検討</p>
--	--

	<p>を要する部分については、後日、各委員あてに書類にて検討結果を報告する。</p> <p>4 その他 ＜事務局による今後のスケジュールの説明＞</p> <p>5 閉 会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--